

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300156		
法人名	社会福祉法人 心愛会		
事業所名	ハーモニー並木		
所在地	福島県郡山市並木5丁目6-7		
自己評価作成日	令和2年11月11日	評価結果市町村受理日	令和3年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・お客様と一緒に過ごす時間を大切に、一緒に調理をしたりと出来ること、やりたい事を活かしその方らしい生活を過ごしてもらうようにしている。
 ・職員の興味がある事や必要としている事を把握し定期的に外部研修の参加、毎月内部研修の実施をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. コロナ禍の中、日常生活の関わりの中で利用者の何気ない言葉を大切に、利用者自身が「やりたいこと・してみたいこと」をリスト化し、少しでも利用者の思いが実践できるよう取り組んでいる。
 2. 事業所は、研修計画を立て内部研修を実施し、職員の資質向上に取り組んでいる。また、介護福祉士及び初任者研修等の資格取得を推進し、法人による資格取得助成制度の活用と研修参加を促している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング時に法人理念、事業所理念を唱和し実践できるようにしている。また、理念を深めるために勉強会を開始した。	事業所内に理念を掲示し、申し送り時に全職員で唱和し理念を共有しながら実践につなげている。また、年度初めに、法人理念・事業所理念について研修を行い確認しながらケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域交流を続けている。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響で交流が出来ていない。	地区自治会に加入し、地区の清掃・祭り・除草作業に利用者と共に参加し、小学校の運動会にも参加している。地域住民の認知症に関する相談や学生の実習受入れ、ボランティアの受入れを行い交流を持っている。現在は、コロナ禍で交流を自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまでは認知症カフェや介護講座等を行っていたが、今年は新型コロナウイルスの為、実施できず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を実施している。今年度は新型コロナウイルスの為、書面にて報告しご意見等は電話にてお願いしている。	コロナ禍のため、書面により運営推進会議は定期的開催している。会議は、ヒヤリハット・行事予定や利用者状況等について書面で報告し、委員から意見等をいただき、サービスに活かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症カフェの開催に向け、担当者と連絡をとっている。また、地域に関しての疑問等は担当の包括に相談し連携を図っている。	事業所で行っている認知症カフェの再開に向けた相談や家族・利用者が抱えている課題等について、市の担当課と連絡を取りながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、職員に対して正しい知識をつけてもらうようにしている。	身体拘束廃止委員会が中心となり、全職員で身体拘束等に関する自己チェック表により、アンケート調査を実施している。身体拘束・虐待を職場全体の課題として捉え、玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアを実践している。なお、身体拘束廃止委員会は毎月開催し、研修会も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での勉強会やアンケートを実施し職員に対しての意識付けと共に防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の把握を努め、必要時に活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不明点がないかを確認し、その場で説明を実施している。また、疑問点がある場合は都度、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族、お客様との日々の何気ない会話の中でご意見や要望の把握に努めている。また、ご家族に対してアンケートを実施し書面にてご意見を頂いている。	日常生活のケア場面の中で、常に利用者の意向や希望を把握するよう努めている。また、家族からは、運営推進会議や行事・面会時、アンケートの実施で意見・要望を聞き取り、運営に反映している。アンケート結果も家族に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事前に職員より提案等を聞き、職員会議時に議題として話し合っている。また、各委員会よりの意見を聞き反映に努めている。	管理者は、日頃から職員が意見や要望を言いやすい職場づくりを心がけている。また、個別面談や職員会議、各種委員会を通して職員の意見や要望を聞く機会を設け、出された意見等を運営に反映している。法人へ意見や提案も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況に合わせた労働条件の設定をしたり、資格取得や向上のための研修の参加を促している。また、委員会を中心に職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を定期的実施し、全職員が参加出来るようにしている。また、個人にあった外部研修に参加する機会をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内、外部研修にて同職種で働く人との交流をすることで刺激になり向上に繋がる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の意思を確認し把握に努めている。また、カンファレンス等で情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていることを把握し、不安を軽減されるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が最も必要としていることを確認し、サービスの提案を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に調理をしたり片付けをしたりと生活の時間を一緒にすごし、その方らしさを活かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの為に以前よりご家族と会う機会は減ったが、ご本人希望時等は連絡を取ったり関係性を意識している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの為、実施出来ず。現在はご家族対応の外出のみ。	事業所近くの友人・知人の来訪があり、気兼ねしないで来ていただけるよう配慮している。家族と外出を兼ねた食事会や外泊、お墓参りや、通院方々行き付けの理美容院に寄るなど、関係が継続できるよう支援している。現在は、コロナ禍の影響で自粛している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクやお手伝い等を通し、職員が中間に入りながら関わりあう関係性の支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族からの連絡が入った際は相談を受け、助言等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様ごとに思い等を把握し希望を叶えられるように努め、職員間で情報共有をしている。	担当職員が日常生活の関わりの中で、利用者の思いや意向、やりたいこと・やってみたいことを、「やりたいことリスト」としてまとめ、全職員で検討し実践できるよう取り組んでいる。困難な場合は、生活歴や趣味嗜好、家族の情報を得ながら、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様の生活歴、習慣を職員で把握し継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り等で一人一人の状況を把握し、状況に合わせた支援を努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスを通して、ケアの話し合いや評価結果の意見を出し合いより良い介護計画の作成に努めている。また、ご家族の要望も随時対応できるようにしている。	担当職員がカンファレンスシートに、利用者へのサービス提供と利用者の希望(やりたいこと・やってみたいこと等)をまとめ、毎月全職員で意見を出し合い、定期的なモニタリングと介護計画の見直しを行い、家族の意向も反映した介護計画を作成している。利用者の心身状態変化時は、状況に即した見直しと介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子等を記録に残し状況を把握し、毎日申し送りを実施し共有している。また、記録やカンファレンス等を確認し計画の見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様一人一人のニーズを確認し、その時にニーズに合わせて柔軟に対応出来るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お客様に合った社会資源を見つけ、張りのある生活が出来るように努めているが今年新型コロナウイルスの為、実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様、ご家族の希望を聞き今までかかっていた主治医と連携を図りながら適切な医療を受けられるように提案、相談に努めている。	入居時に利用者・家族と受診について話し合い、馴染みのかかりつけ医を希望する方は、家族の協力を得て継続受診し、医師と事業所とが連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。また、協力医の往診の結果は、電話等で家族へ報告し、共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違う等があった時にはご家族に報告し共有している。また、訪問看護等に伝えて連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリーを作成し情報共有をしている。また、退院時はご家族、病院関係者と密に連絡をとり状況の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合いの場を設け、少しでも不安を取り除けるように努めると共に、事業所で出来る所を明確にしている。	入居時、利用者・家族に事業所の重度化や終末期の対応を、指針に沿って説明し、同意を得ている。また、容態の変化と共にその都度、家族と十分に話し合いを持ち、意向確認を行い関係者がチームで支援に取り組んでいる。家族の看取りケアの要望に対しては、医療機関と連携をとりながら実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要物品や対応方法について勉強会や法人のマニュアル等を確認、実施し身につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	昼夜の避難訓練を実施し、いざという時に職員が落ち着いて対応できるように努めている。	防災・消防計画が策定されており、火災避難訓練（昼夜想定）、地震想定避難訓練等を実施し避難経路の確認も行っている。訓練実施報告書を消防署に提出しているが立会指導は受けていない。非常時用備蓄品として、「非常食3日間満足セット」を準備し、ヘルメット、懐中電灯の他ナップサックに非常時用品が一式用意してある。	風水害等の訓練を含め、昼夜間・季節を意識した訓練を数多く実施し、職員が利用者を避難誘導できる実体験を数多く積むことが望まれる。また、消防署の立会指導のもと、訓練実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の意見を尊重し寄り添ったケアを意識している。また、研修やアンケートを実施しプライバシー、接遇等の理解に努めている。	利用者が今まで過ごしてきた生活や経験、趣味等を本人・家族から情報を得て、サービスに結び付けている。また、利用者の「やりたいこと」をリスト化し、希望に沿えるサービスが提供出来るよう努めている。利用者との関係で慣れ合いにならないように努め、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に心掛けている。個人情報、鍵付き書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様からの希望には可能な限り対応しようとしている。また、選択肢を提案し自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペースを把握し、出来る範囲で1日1日の過ごし方を決めて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時にはお客様本人に洋服を選んでもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事を食べるだけでなく、調理も一緒にお客様と行い、楽しみをもって食事をしている。	利用者が食事に対して楽しみが持てるよう、調理や食器洗い等を職員と一緒にやり、食事を共にしている。嗜好は入居時や日常生活の中で把握し、メニューや行事食等に採りいれている。主治医や看護師からアドバイスを受ける場合もある。メニューは、同系列の特養の栄養士によるものを基に食事委員会で検討を加え作成している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様に合わせた食形態や量を把握している。また、食事量が少ない時等は状況に合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。介助の方はもちろん自分で出来る方には定期的に促し、清潔を維持出来るようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様の排泄パターンを把握する為、定期的な尿量測定を実施しパターン把握に努めている。	利用者一人ひとりがトイレでの自立した排泄が維持継続できるよう排泄チェック表や生活習慣・表情・仕草等から排泄を察知しトイレへの誘導をプライバシーに配慮しながら支援している。異性によるトイレへの声かけは、利用者の気持ちに立って支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量、水分摂取量の把握に努め促している。また、運動や体操をして自然排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴曜日は決まっているがその日の状態、希望等で臨機応変に入浴日を変更している。また、本人の希望する入浴方法等で対応している。	入浴は、週2回を目標にしているが、利用者の生活習慣や心身の状態、希望により随時、日時の変更を行い、支援している。楽しく入浴を進めるために職員との会話や入浴剤の使用、菖蒲湯・ゆず湯等を採りいれ季節感を味わってもらえるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の状態に合わせた休息時間を設け、夜間はゆっくり眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様の内服薬が変更になった際は、職員間で共有しどんな作用等があるのか確認をしている。また、服薬する事での注意点も共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様に合わせた役割、楽しみを提供しその方らしい生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの為、外出を控えている。中庭等に出て気分転換をしている。	年間行事計画として花見や紅葉ドライブ等外出計画を立てているが、コロナ禍で計画通りには進まず、家族の協力を得て進めてきた墓まいり外泊等も中止している。現在、中庭での気分転換や事業所周辺での散歩でストレス解消を図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルスの為に使用する事がなくなっているが、外出時等には一緒に付き添い支払いをしたりする支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様からの希望があると、事業所の電話を使用し連絡が取れるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けを変えたりと季節感を感じてもらえるようにしている。	リビングや食堂に利用者が作成した季節感のある作品が飾られ、利用者一人ひとりが、思い思いの場所で過ごされている。気になる音、光、色等は、感じられず、温湿度の管理は職員が行い、特に換気に関しては、午前・午後・夜と定時に実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置等を工夫したり、団欒の場等を作ったり居心地よい空間作りを意識している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	お客様に合った環境設定に努めている。ご本人やご家族に確認し、出来る限りその方が生活してきた環境に近づけられるようにしている。	居室には、利用者が自宅で使い慣れたテレビ・ダンス・衣装ケース・ラジオ・仏壇等を備え、家族や孫の写真、ぬいぐるみ等を飾り、安心してゆったりと生活が送れる空間を家族と相談の上、構築している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室等、分かるように目印をつけ自立した生活ができる環境作りに努めている。		